

視察等報告（復命）書

報告者氏名 穴 戸 稔

下記のとおり、研修が終了したので報告します。

	会派代表者	経理責任者
期 間	令和3年3月29日	
研修会場	オンライン「ZOOM」	
研修名	日本生産性本部「地方議会評価モデル」の活用法	
研修内容	<p>1 「これからの議会改革 ～議会からの政策サイクルとバックカスティング思考～」 山梨学院大学教授 江藤 俊昭 氏</p> <p>議会評価モデルの考え方は、議会のあるべき姿に対して、評価項目を使って「バックカスティング的に」（未来の目標を立て逆算して、計画を立てる）現在どのような状態にあるのかを判定することによって、自分の議会が「住民福祉」増進に向けた成熟度がどの位置にあるかを自己診断する際のツールとして使用するとともに、この成熟度という考え方の認知度を広げることによって第三者的な評価をしてもらえる汎用ツール化を目指す。議会からの政策サイクルとは、議会が住民の意見を吸い上げ、議員間討議を通じ、時には執行部との機関競争も行いながら、議案審査・政策立案に効果的に反映させるための議会活動の基本的なプロセス。</p> <p>2 「多様な民意を反映する議会を創るには」 可児市議会元議長 川上 文浩 氏</p> <p>可児市議会では「市民に信頼される議会」を目指し「議会の力が地域の未来を創る」をモットーに「4つのサイクルアニュアルプラン」を機能させ活動している。</p> <p>① 改選後4年の議会使命を明確にして方向を決める「議会運営サイクル」 ② 決算を起点として次年度予算へ議会の意思を反映させる「予算決算審査サイクル」 ③ 一般質問や議会報告会、各種団体との意見交換会、地域課題懇談会などで集約された市民意見を委員会の所管事務調査や政策提言に生かす「意見聴</p>	

取・反映サイクル」

④ 議会と学校、行政、地域との協働で高校生議会やママさん議会、模擬選挙などを通じて課題を抽出し解決していく「若い世代との交流サイクル」
これらのサイクルを機能させることにより、市民からの期待に応えることができるよう議会活動を行っている。

三次議会でも是非この議会評価を行い、政策サイクルに取り組むべきと考える。議会からの政策サイクルが市民福祉の増進のために稼働できる状態になれば市民の信頼が寄せられようになり、議会内部での議論の質も向上していくものとする。